

めでいかすとる  
Médicastre



「朝日のカタクリ」

鶴岡地区医師会勉強会抄録

日時：平成28年4月15日(金) 19:00~20:30  
場所：鶴岡地区医師会館 3階講堂

## 『知って得する炎症性腸疾患(IBD) 最新診療のコツとポイント』

札幌厚生病院

副院長兼IBDセンター長 本谷 聡 先生

### 1) 潰瘍性大腸炎の診断

持続性または反復性の粘血・血便、下痢を主症状とし、内視鏡と生検組織から確定診断する。内視鏡により、直腸から連続して広がる粘膜と粘膜下層のびまん性炎症所見(毛細血管透見性の低下や消失、粗ぞうな細顆粒粘膜、発赤、びらん、小潰瘍、膿性粘液の付着や脆弱な粘膜)を観察する。炎症の程度が強くなると、浮腫は増強し潰瘍形成に至り地図状潰瘍、深掘潰瘍を認める。生検組織では、粘膜と粘膜下層にびまん性炎症細胞浸潤や陰窩膿瘍や高度の杯細胞減少が認められるが、これらは感染性腸炎等でも認められる非特異的な所見である。慢性に炎症が持続すると、内視鏡では炎症がないと思われる寛解期の粘膜でも腺の配列異常(蛇行・分岐)や萎縮が残存する。直腸から連続して、これらの所見が確認できればUCと診断する強い根拠になる。

### 2) クロウン病の診断

特徴的所見である縦走潰瘍(主要所見A)または敷石像(主要所見B)が内視鏡もしくは造影検査で確認できれば、生検組織での非乾酪性類上皮細胞肉芽腫(主要所見C)が証明されなくても、適切な除外診断を経て確定診断してよい。典型的な縦走潰瘍ではないが、消化管の広い範囲に不整形潰瘍やアフタを認めた場合は、組織学的な非乾酪性類上皮性肉芽腫の証明が、CD確定診断の必須条件となる(副所見a+主要所見C)。非乾酪性類上皮細胞性肉芽腫の検出が困難であっても、さらに肛門病変(副所見b)と上部消化管にCDの特徴的な所見(副所

見c)を確認できる場合にもCDと確定診断してよい(副所見a+b+c)。すなわち、CDの的確な確定診断を得るためには、下部消化管にとどまらず上部消化管内視鏡検査を行うことも重要である。

### 3) 潰瘍性大腸炎の治療ストラテジー

基本治療薬である5ASA製剤を十分量投与することが基本治療である。ただし、5ASAアレルギーの存在にも留意を要する。ステロイドには過度に依存することなく、ステロイドフリーでの寛解維持をめざす。

難治例の場合には、重症度に応じて、チオプリン系免疫調節薬、血球成分除去療法、抗TNF $\alpha$ 抗体製剤、カルシニューリン阻害薬による治療強化を行う。内科治療無効例は適切な手術時期の決定も重要である。

### 4) クロウン病の治療ストラテジー

ステロイドやチオプリン系免疫調節薬、さらに抗TNF $\alpha$ 抗体製剤による炎症性サイトカインの制御が基幹治療である。小児や小腸の病変に対しては成分栄養療法も行われる。

またこの数年は、抗TNF $\alpha$ 抗体製剤の卓越した効果が広く経験されるとともに、二次無効等の新たな課題にも直面している。抗TNF $\alpha$ 抗体製剤による治療介入の適応と治療効果を最大限に引き出す適切な治療の工夫が、CDの治療戦略上きわめて重要である。特にインフリキシマブは免疫調節薬との併用が良好な長期予後と二次無効の抑制に寄与する一方、アダリムマブは単独治療でも良い。

## 第58回鶴岡准看護学院入学式

日時：平成28年4月7日(木) 13:30～  
場所：鶴岡地区医師会館 3階講堂

平成28年4月7日、第58回鶴岡准看護学院入学式が挙行されました。16年ぶりに女子学生のみ26名の入学となりました。入学当初は表情に硬さのある学生が目立ちましたが、少しずつお互いの距離が縮まり、今では笑い声が教室に響いています。これからの2年間、准看護師としての基礎的知識・技術・態度の習得を目指し、学生と共に成長していきたいと思ひます。会員の先生方の温かいご指導とご協力をよろしくお願ひ致します。

### 石川 瑠衣

入学式から数日たち、クラスの皆とも少しずつ会話が弾むようになってきました。十代から四十代までの幅広い年齢層のクラスで、今まで経験したことのない新鮮な雰囲気です。私は、准看護学院に入学し出会うことのできた同級生や先輩方とのコミュニケーションを大事にしていきたいです。実習などでもコミュニケーション能力が求められるので、日々の生活の中で養っていききたいです。また、授業中の態度や発言に気をつけ、教科書やノートの復習をしてテストで赤点をとらないように頑張りたいです。

### 大瀧 和香

入学式を終え、楽しみや不安がありますが今の目標である准看護師に向けて、勉強を頑張っていきたいと思ひます。准看護師の仕事は、医療現場でとても大切な仕事だと思ひます。患者さんのそばで向き合い、患者さんを第一に考えなければならないと思ひます。この2年間で准

看護師に必要な専門的知識・技術などを身につけていきたいです。少しずつ成長できるように日々の学校生活を大切にしていき、2年後の卒業式では笑顔で卒業し、准看護師になれるように頑張っていきたいと思ひます。

### 植村 恵帆

鶴岡准看護学院へ入学できたことは、夢への第一歩であり、チャンスを与えて頂いたと思ひています。このチャンスが無駄にせず、精一杯勉強に励んでいきたいです。そのためには、早く学校生活のリズムに慣れ、看護の基礎、基本をしっかりと身につけたいです。わからないことは積極的に質問し、知識を深めていきたいです。そして、これから学んでいく中で、苦しいことや辛いこともたくさんあると思ひますが、お互い励まし合い切磋琢磨していける仲間を作りたいです。有意義な学生生活を送るために、努力を継続し向上心を持って学んでいきたいです。

### 兼子 まどか

私の理想とする准看護師像は、患者様と同じ目線に立ち、考え、欲求を理解し精神面でもサポートしていける准看護師です。理想の准看護師に近づくために、生活リズムを整え、体調管理をしっかりと行い、日々の復習を怠ることのないようにしたいと思ひます。また、疑問に思ったことがあれば、先生方に聞く・自分で調べるなどして知識を増やしていきたいと思ひます。そして、患者様の心理的な部分を理解し、サポートしていけるよう努力していきたいです。



## 故 板垣 茂文先生のご冥福をお祈り申し上げます。

平成28年3月26日ご逝去 満60歳



### 走り去った武将 故板垣茂文先生を偲ぶ

平成28年3月26日板垣先生が自宅で亡くなられているところが発見されました。連絡をもらい先生の自宅に駆けつけると変わり果てた姿があり、あまりに急なことで呆然と立ち尽くすのみでした。部屋の片隅に木刀と竹刀が立てかけられていたのが印象に残っております。葬儀も終わり病院の部屋の片付けをしていただきましたが、机の引き出しに引っかかっていた文章が最後に出てきました。何かの会誌に書かれたようですが、荘内病院に赴任された時期の想いを綴った一文と思います。自分のことは多くを語らなかった板垣先生ですが心の内を垣間見ることができると思います。以下にその一部を引用します。

#### 来し方行く末

鶴岡市立荘内病院 板垣 茂文  
大学の医局より県立日本海病院に赴き、一度

は酒田を終の棲家と考えたこともありましたが、現在、縁あって、十三年前に内科医の研修をさせて頂いた荘内病院に「出もどり」赴任し、鶴岡に住んでおります。とりあえず元気にやっています。どういうわけか、体重も5kgほど増えてしまいました。

引越しは、単身赴任ゆえ、本とパソコンとテレビとコタツといったあっさりしたのですが、本の選択にあたりちょっと思うところがありました。いろんな経過があって今回の異動となったこともあり、これまでの自分に「生き方」というものを考えさせてくれたものを手元において、もう一度目を通したいと思ったのです。学生時代にむさぼりつくように読みあさった戦国時代物、なかでも、「関ヶ原」「城塞」「軍師二人」など司馬遼太郎により活写された武将群像にまた会ってみたいと思います。大義名分といった行動規範などはあってなきがごとき時代背景が好きで、保身、欲望、誇り、これらがナマのままぶつかり合うなか、死を賭して潔く己を貫くことのできた武将たち（島左近、真田幸村、雑賀孫一など）に、強く惹かれるものがあります。また、同時期に読んだ三島由紀夫の「葉隠入門」、例の“武士道といふは死ぬことと見つけたり”ですが、これの意味するところが、常に死を覚悟しておくことにより一瞬一瞬禍根ない生を送るという究極の「生の哲学」であることを知りました。大学卒業後は読

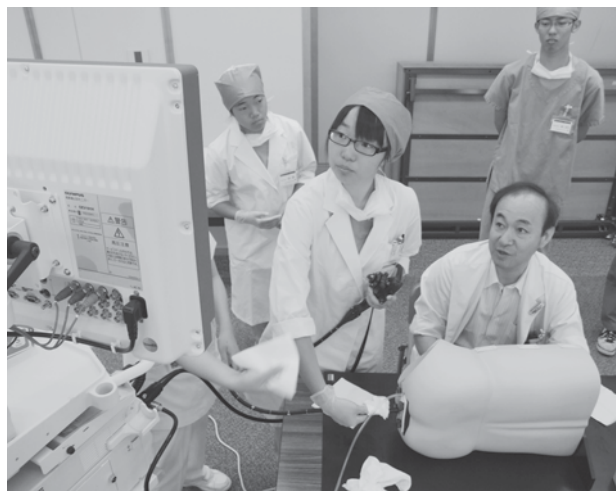
書より遠のいたまま、「葉隠」を意識しつつもそれほど厳しい生き方もできず、どこかで真田幸村や島左近を気取って生きてきました。

(中略)

これからどういう出逢いが待ち受けているか想像もつきませんが、自分の生き方の基本は、これらの書物から感じ取ったものがこのままずっと続くだろうな、と思います。鶴岡は城下町ですので、戦国武将に思いを馳せ、葉隠を意識しながら生きていくのには適した土地がらかな、と思ったりもしています。

(引用終わり)

戦国時代の武将然として、刀を内視鏡に持ち替えた先生の仕事ぶりはまさに一瞬一瞬を無駄にすることなく、患者のために自分の限りを尽くす、そのものでした。どんなに寒く雪が積もっていても素足に草履、白衣を着流して歩く姿は多くの人の心に残っております。肝胆膵疾患についての造詣が深くERCP、超音波診断をはじめ内視鏡検査、治療についてはとても頼りがいのある先生でした。昭和62年に私が荘内病院に来たころに初めてお会いし、一緒に患者の治療に当たった事が思い起こされます。大学に帰ることになってからも是非鶴岡に来てくれる様にお願いしてきました。その願いが叶い平成11年に荘内病院に赴任され当院の消化器内科の発展にご尽力いただいた事は皆様ご存じのとおりです。剣道が大好きで、子供のころから達人の域にあり、大学時代には全国に名を馳せたことをご家族より聞きました。先生の考えの基本は武士道であり剣の修行を通じて培われた



ものなのでしょう。自分の体については顧みられず、患者のためにいつも全力を投じてくれた事に心より感謝をいたします。山形内陸地方訛りの話し方で（大石田出身）、患者のみならず、同僚にとっても優しく、いつまでもあの声は忘れられません。荘内病院のみならず鶴岡と庄内の医療にとって大きな損失となったことは残念ではありません。天国で戦国武将と語り合うことができているでしょうか。あまりにも早くかけ足で医療という原野を走り去った武将 板垣茂文先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

鶴岡市立荘内病院 院長 三科 武



## 私のお勧めの店

横 山 靖

今回紹介する店は酒田市の十里塚にある中華料理「龍鳳」。お勧めは味噌ラーメンである。中華料理店の味噌ラーメンを選ぶというと意外に思うかもしれない。

味噌ラーメンは札幌の三平が始めたとされるから日本発祥の食べ物である。だからこそ逆に伝統に沿って作られている一般の中華メニューと異なり、伝統がないゆえにかえって料理長の創意とセンスが試されるメニューともいえるのではないだろうか。

さて龍鳳の味噌ラーメンといえば何よりその味噌スープの素晴らしさである。その味わいはアッサリかコッテリかと問われれば、コッテリ系であるが、しかし濃厚というようなドロドロしたイメージの表現は使いたくない。この味噌スープの素晴らしさを表現するなら豊潤という言葉がピッタリだろうと思う。一口スープを飲んだら、ブレンドされたであろう味噌の心地よい香りと角のとれたまろやかな塩気、そして味覚を癒してくれるような優しい甘みが口中に押し寄せてくる。やがてこの甘やかな味わいの余韻が消えゆく中、滋味深いコクが現れては味覚の海の底へゆっくりと染み込んでゆく。この味噌の旨み、甘やかさが口の中の空間の横への広がりなら、味覚の深部へと沈み込んでゆく深いコクは、感性の世界の縦空間への広がりともいえる。この立体的な複雑性、構築性こそがこの味噌スープの見事さなのだ。そして次に称賛すべきは具材の野菜の美しさである。中華料理の野菜のおいしさといえば高温で短時間でサッと炒めるあの手際のよさにある。だからこそ野菜たちは本来の美しい野菜の色を残しながらも、シャキシャキとした歯ごたえが残るのだ。これが下手なラーメン屋ともなると野菜をスープと一緒に煮たりして出すので、せっかくの野菜がクタクタになったりしてこれではダメである。先ほどは味噌ラーメンは料理長の創意とセンスと書いたが、味噌ラーメンにぜったい必要

な野菜に関しては、中華料理の伝統の技が味わえるとでもいえるだろう。

味噌ラーメンの丼には通常のレンゲと底に穴の開いたレンゲの2本がついてくる。もちろん普通のレンゲはこの素晴らしいスープを飲むために使うのだが、もう1本の穴の開いたものは何のためにあるのか……？ 味噌ラーメンのもう一つの重要な具材と云えば、野菜の上に王者のようにたたずむたくさんのコーンである。なぜ味噌ラーメンにコーンかといえば、やはり味噌ラーメンは北海道生まれだからだろう。だから絶対に必要なのだが、コーンは箸では掴みづらい。だから味噌ラーメンを食べ終わるころにはほとんどのコーンはスープの下に沈んでいるという残念な結果となる。ここで活躍するのが穴あきのレンゲである。穴あきのレンゲの能力といえば見事なもので、1個のコーンも残すことなく食べれるのだ。私の場合は麺を食べ終わった後に2回穴あきレンゲでコーンを味わった後、普通のレンゲでスープを1杯飲むというのがお気に入りの食べ方である。ただ、あえて麺だけ私の希望を述べるなら、これだけの見事なスープを受け止めるとなれば中太くらいで、スープがなじみやすい縮れた麺ならなお良い。

この店はどのメニューもおいしい。だからとても人気がありいつも混む。酒田の市街から離れた十里塚にあるとは思えない混雑ぶりである。ある程度待つことは覚悟していただきたい。流行る店とはやはりそういうものなのだろう。



### 『龍鳳』

住所 山形県酒田市十里塚村東山356-3  
TEL 0234-31-1671

## 新入会員の紹介 ～平成28年4月1日入会～



氏名：白幡康弘

生年月日：昭和43年6月29日

生まれた所・育った所：鶴岡市

勤務先・診療科目：鶴岡市立荘内病院・外科

出身校：東北大学大学院 医学系研究科

趣味・特技：以前はテニス部でした

鶴岡地区医師会会員の皆さんへ一言：外科、消化器外科、肝胆膵外科として、努めていきたいと思えます。鶴岡の患者様は地元で高度な肝胆膵の治療が出来るよう努めます。



氏名：志田努

生年月日：昭和53年9月3日

生まれた所・育った所：福島県伊達郡川俣町字寺前11

勤務先・診療科目：志田整形外科医院

出身校：福島県立医科大学 医学部

趣味・特技：TV観賞



氏名：中目哲平

生年月日：昭和53年12月30日

生まれた所・育った所：山形県鶴岡市

勤務先・診療科目：中目内科胃腸科医院

出身校：北里大学 医学部

趣味・特技：野球観戦（阪神戦）

鶴岡地区医師会会員の皆さんへ一言：1日でも早く地域の皆様に信頼されるように頑張ります。よろしくお願ひします。

医師会  
ニューフェイス

～平成28年5月1日採用～



氏名：神谷由香

所属：湯田川温泉リハビリテーション病院  
看護課 看護師

趣味・特技：映画鑑賞

ひとこと：

「患者様、ひとりひとりの心に寄り添った看護」を目標に、一生懸命がんばりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

## 表 紙

## 「朝日のカタクリ」

真島 吉也

庄内朝日下田沢のカタクリ園に行きました。丁度満開の桜吹雪とカタクリの花で山里の春を満喫しました。

## 編 集 後 記

ゴールデンウィークも終わり、やっと日常の生活が落ち着いてきた頃と思います。皆様はどのような休日を過ごされたでしょうか。

東日本大震災から5年。まだ、その記憶も消えない4月14日に発生した熊本地震は、その規模や度重なる余震など、今までにない形での災害となりました。特に、前震から1日経過し、やっと停電が解消され、我が家に帰ったタイミングでの本震で、多くの方が犠牲になったことは、大変残念なことと言わざるを得ません。また、車中泊や避難所での生活において、エコノミークラス症候群の発症が比較的若年者でも起こるなど、被災された方々のご苦労や恐怖は、想像に難くありません。

一日も早い復興と犠牲になられた方々のご冥福を祈ると共に、出来る限りの支援、また、忘れがちな災害への準備・対策も、常に意識していく必要があります。

4月の医師会勉強会は、札幌厚生病院の本谷聡先生による炎症性腸疾患(IBD)のお話でした。学生時代の古い知識しかない私にとって、最近の診断・治療法の進歩は、びっくり驚くことばかりでしたが、軽妙な中にもメリハリのある話術でぐんぐん引き込まれ、あっという間の時間でした。もっとたくさんの方に聞いていただきたい内容でしたので、残念に思いました。今年度も、あと3回の勉強会が予定されております。是非、ご都合をつけご参加ください。

久しぶりに、横山靖先生の「おすすめのお店」も復活しました。楽しみに待っていらっしゃる方も多いと思います。また、不定期にでも、お店の紹介をお願いしたいと思っています。

(福原 晶子)

編集委員：三浦 道治・福原 晶子・三科 武・斎藤 高志・中村 秀幸・伊藤 茂彦

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

ホームページにも掲載しております  URL <http://www.tsuruoka-med.jp>

印刷所：富士印刷株式会社 鶴岡市美咲町27-1 TEL 22-0936(代)